

2 社会科（地理的分野）学習指導案（2年生）

1 単元名 「日本の諸地域 九州地方」（内容のまとめり C日本の様々な地域（3）日本の諸地域）

2 単元設定の理由

本単元は平成29年告示の学習指導要領社会編、地理的分野内容C（3）「日本の諸地域」について、本校所在地である九州地方の具体的な地域的特色を、既習の考察の仕方を利用して追究する。中項目「日本の諸地域」のねらいは、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、地域的特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することであり、この学習の全体を通して、日本の諸地域の地域的特色や地域の課題とともに事象間の関係性を理解できるようにすることが求められている。

九州地方は温暖な気候と世界最大級のカルデラを有する阿蘇山など自然環境に恵まれており、農業や観光業などの諸産業の発展へと繋がっている。一方、梅雨時期の集中豪雨や台風などの自然災害も多い。工業に目を向けると、経済の国際化、産業の高度化が進展する中で、自動車や半導体などの産業が発達しているとともに、過去の歴史から環境保全への取組も盛んである。また、人口が集中し政治や経済の中心的な役割を果たしている福岡県の存在、高速道路や新幹線などの交通網、東アジアとのつながりなど、中核となる社会的事象が多くあり、様々な考察の仕方が可能な地域である。本単元では「九州地方に『東九州新幹線』は必要だろうか」という単元を貫く課題を設定する。この価値判断を行うための前段階として「東九州新幹線の実現が九州地方に与える影響」を既習の考察の仕方を用いて調べ、考える。この学習過程を経て、九州地方の現状や課題を考察しながら単元を貫く課題に迫ることで、九州地方の特色を多面的・多角的に考察・表現する力を養いたい。

生徒は前単元の「日本の地域的特色と地域区分」の学習で、分布や地域などに関わる視点に着目して、日本の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色と地域区分の方法や意義を学び、概念的な知識や技能を身に付けてきた。社会科に対する関心が高く、意欲的に課題を追究する姿が見られる（教科アンケート結果より、社会科が好き93%、社会科がわかる87%）が、発想力はあるものの根拠に乏しい発言が多い。単元テストや定期考査の平均正答率を見ると、知識については82%であるのに対し、資料の読み取り、活用については66%であり、資料を読み取ったり、その情報を活用したりする能力に課題がある。令和2年度大分県学力定着状況調査の結果を見ても、知識に関する問題の正答率が81.5ポイントであるのに対し、活用問題の正答率は61.6ポイントであった。

そこで本単元では、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて考察・表現することに加え、数値データを根拠に考察・表現することを重点として指導する。そのために国や各県の資料を活用するとともに、関連する企業の意見や地域住民の意見など、様々な考えに触れさせたい。さらに、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局及び経済産業省の「地域経済分析システム（RESAS）」を活用したいと考える。また、本校の研究の取組である「問い」の工夫Ⅰ、「問い」の工夫Ⅱを下記のように位置付けた。

「問い」の工夫Ⅰ・・・めあて、課題を生徒に届け、共有させ、主体性を生むための手立て・プロセス

- 単元を貫く課題として設定し、プレゼンテーションを行う（パフォーマンス課題の設定）。
- 既習知識・概念を活用して、学習の見通しをたてる（課題を追究するためには、その影響を調べる必要があることに気づかせ、学習計画をたてる）。
- 学校所在地である九州地方を既習の考察の仕方を活用（自分で選択）して考察する。

「問い」の工夫Ⅱ・・・深い学び（単元のねらいの達成）に迫るための手立て・プロセス

- 数値データを根拠として考察・表現させる（国土交通省や各県の資料、RESASなどを活用する）。
- 班同士の交流（互いに批評する場面）を設定する（対話、思考の活性化）。
- 「20年後の大分」や総合的な学習で追究している「これからの社会」の姿の視点から振り返り、考えを修正する場面を設定する（思考の活性化、形成的な評価）。
- ゲストティーチャーによる批評や実際の取組、地域住民の意見との比較により、考えを修正する場面を設定する（思考の活性化）。

めあての中に「20年後の大分」という価値的な要素を取り入れて振り返りの視点とし、生徒に自らの学びを調整させる過程を単元の中に仕組んだ。1時から7時までの自分の考えを「一次の納得解」とする。そして、8時から9時において他者との意見交流やゲストティーチャーからの批評をもとに修正した考えを二次の納得解とする。

3 単元の指導目標

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力，人間性等
<ul style="list-style-type: none"> 九州地方について，比較的温暖な気候と豊かな自然環境，高速道路や空港の整備が諸産業と深く結びついていることや，環境保全への取組，それぞれの地域での持続可能な地域づくりに向けた取組と，そこで生じる課題について理解させる。 九州地方に関して，調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 九州地方において，「東九州新幹線」の実現が与える影響を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応に着目して，特色ある自然環境や諸産業の様子，持続可能な地域づくりに向けた取組と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 九州地方について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

4 単元構造図（内容のまとめ「日本の諸地域」の評価についての計画）

内容のまとめ 「日本の諸地域」（全 34 時間）

内容のまとめの目標：空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して，地域の特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し，表現することができる。また，日本の諸地域の地域的特色や地域の課題とともに事象間の関係性を理解できる。

1（4時間）	2（5時間）	3（3時間）	4（4時間）	5（4時間）	6（4時間）
北海道地方 （自然環境） 【○知識・○技能】 【●主体的に学習に取り組む態度】	関東地方 （人口や都市・村落） 【○知識・○技能】	中国・四国地方 （人口や都市・村落） 【○知識】 【●思考・判断・表現】	中部地方 （産業） 【○知識】 【●技能】	近畿地方 （産業） 【○知識】 【●思考・判断・表現】	東北地方 （交通や通信） 【○知識・○技能】

※評価については，国立教育政策研究所発行の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参考に，下記のように設定した。

○・・・観点別学習状況の評価や評定のための資料として用いる評価

●・・・学習状況を見取り，生徒の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導，支援を行う日常の学習改善に繋げる評価

C・・・生徒への支援，評価方法

単元の評価規準「九州地方」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 九州地方について，その地域的特色や地域の課題を理解している。 自分たちが選択した考察の仕方，特色ある事象を取り上げ，その事象とその事象に関連する他の事象や，そこで生ずる課題を理解している。 九州地方に関して，調査や諸資料から，考察の根拠となる地理的な情報を調べ，効果的にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 九州地方において，自分たちが選択した中核となる事象の成立条件を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目して，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 九州地方について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を，自己の学習を振り返りながら，粘り強く主体的に追究しようとしている。

単元名「九州地方(10時間)」

単元の目標：空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、九州地方の特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。

単元を貫く課題 「九州地方に『東九州新幹線』は必要だろうか(←東九州新幹線の実現は九州地方にどのような影響を与えるだろうか)」

単元のめあて 九州地方の特色について、「20年後の大分」を視点に多面的・多角的に考察し、数値データを根拠に自分の考えを説明することができる。

単元を貫く課題「九州地方に『東九州新幹線』は必要だろうか

① 目標 既習知識を用い、九州地方の現状・課題について意見を出し合い予想するとともに、単元を貫く課題を設定し、学習の見通しをたてる。

- 九州の現状と課題について、ウェブマップや付箋を用いたブレインストーミングの手法で予想する。
- 予想を共有する中で東九州新幹線の計画を示し単元を貫く課題につなげ、学習の見通しを生徒とともにたてる(単元のゴールの共有、どのようなことを調べればよいか)。

【●主体的に学習に取り組む態度】九州地方の現状と課題について意欲的に予想をたてるとともに、単元の学習の見通しをもって取り組もうとしている。

C 単元の学習の見通しを視覚的に毎時確認させる。

ワークシート(振り返りのアンケート、記述)

② 目標 東九州新幹線が九州地方に与える影響について、選択した考察の仕方を視点に調べる。

- 書籍やインターネットを用い、東九州新幹線が九州地方に与える影響について、選択した考察の仕方を視点に調べる(選択した考察の仕方をもとに班を編成)。

【●技能】東九州新幹線が九州地方に与える影響について、調べた内容をマトリクス等の思考ツールを用いて整理している。

C 参考資料や関連ホームページ等を提示する。

ワークシート

④ 目標 調べた内容を分析・考察し、東九州新幹線が九州地方に与える影響について説明することができる。

- 調べた内容を分析・考察し、東九州新幹線が九州地方に与える影響について説明する。
- 異なる考察の仕方を行った班同士で考えを説明し合い、東九州新幹線が九州地方に与える影響について多面的・多角的に全体像を捉える。

【○思考・判断・表現】東九州新幹線が九州地方に与える影響について、既習の考察の仕方を活用したり自分の予想や他者の意見と比較したりしながら、多面的・多角的に考察している。

C 既習内容を確認させ、考察の仕方を考えさせたり、指導者が提案したりする。

ワークシート(まとめの記述)

⑥ 目標 「20年後の大分」を視点に、「九州地方に東九州新幹線が必要だろうか」について考察し、数値データを用いて自分の考えを説明できるようになる。

⑦

- 単元を貫く課題について考察し、自分の考えをもつ(数値データを基にした根拠ある考え)。

【一次の納得解】

- 賛否の立場で複数の班に分かれ(賛否やその根拠をもとに班を編成)、プレゼンテーションを作成する。

【●技能】

調べた内容から考えの根拠となる情報を抽出し、数値データをグラフや図表で表している。

【●思考・判断・表現】

根拠となる情報をもとに、課題について考察・表現している。

C 有効な思考ツールを提示したり、小集団活動において自分たちの考えを整理する場を設けたりする。

ワークシート、プレゼンテーション資料、自己評価

⑧ 目標 意見の交流と、ゲストティーチャーからの批評を通して、自分の考えを修正する。

- 賛否の意見を交流し、「20年後の大分」を視点に、自分の考えを見直し、修正する(本時)。
- ゲストティーチャーからの批評などから自分たちの考えを見直し、修正する。

【二次の納得解】

- これまでの学習を基に、九州地方の特色をまとめる。

⑨ **思考の活性化**

- 班同士の交流(互いに批評する場面)
- ゲストティーチャーによる批評や実際の取組、地域住民の意見との比較
- 「20年後の大分」を視点に検討し、振り返る場面

総合的な学習との関連(カリキュラムマネジメントの視点)

⑩

【○知識】九州地方の自然や諸産業、環境への取組等、九州地方の地域的特色を理解している。

【●○技能】自分たちの考えの根拠となる情報を適切にグラフや図表で表している。

【●○思考・判断・表現】根拠となる情報をもとに、「20年後の大分」の視点を踏まえて考察し、表現することができる。

【○主体的に学習に取り組む態度】九州地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

C 生徒の思考を、フローチャート等を用いて整理したり、批評の要点を明確化したりし、生徒が自分の考えを見直しやすくなる。

ワークシート(まとめ、振り返り)、プレゼンテーション資料、自己評価、単元テスト

つかむ

深める

5 本時案 (8/10)

- (1) 題材 自分たちの考えを交流し、「20年後の大分」を視点に修正しよう。
- (2) 目標 班同士での交流を通して、「20年後の大分」の視点から自分たちの考えを修正することができる。
- (3) 展開

学習活動	時間	指導	評価・備考
1 前時を振り返り、めあてを提示する。	3	・前時の活動を生徒の振り返りから確認し、本時のめあてを提示する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 単元を貫く課題 九州地方に「東九州新幹線」は必要だろうか </div>			
めあて 自分たちの考えを説明し、批評し合い、「20年後の大分」を視点に考えを修正しよう			
2 班同士で発表し、評価し合う。各班2回の発表を行う。 (10分×2回) 発表(4分) 質疑・応答(4分) 評価用紙記入(2分)	2 20	・ワークシートを参考に、考えを根拠(数値データ)を明確に説明することを確認させる。 ・評価シートについて説明し、視点に基づいた質疑ができるようにする。 C 事前に作成した発表原稿を参考にさせる。	※評価用紙の視点 根拠(データ)の適切さ、「20年後の大分」の2つ
3 個人で単元を貫く課題に対する考えを書く。 数人の発表を全体で共有する。	10 10	・個人で単元を貫く課題に対する考えを書かせる。 C これまでの学習のワークシートなどを参考にさせる。 ・異なる考察の仕方を行った(内容や根拠が異なる)生徒の考えを数人発表させ、指導者が価値づけを行う。	【●○思考・判断・表現】 根拠となる情報をもとに、「20年後の大分」の視点を踏まえて考察し、表現することができる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 単元を貫く課題のまとめ(例) ※二次の納得解構築の途中 賛成 時間距離の短縮(例えば北九州～大分52分短縮)により、九州地方(大分県)の観光が盛んになる。この観光が農業などの活性化にもつながると思う。建設も含めた経済効果は6兆円と試算されている。将来的に四国地方ともつながる可能性も利点だと考える。 反対 時間距離が短縮されることで、中国・四国地方であったようなストロー現象が起き、福岡県に人口が集中する。大分県の人口は30年後に約30万人減少すると予測されているが、もっと減少する原因になり、都市と地方の格差が広がると考える。費用も2兆6,730億円が将来の負担になるのではないか。 </div>			
4 振り返りを行う。	5	・個人で振り返りを行い、班内、全体で共有させる。	【●○主体的に学習に取り組む態度】 九州地方について、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を、自己の学習を振り返りながら、粘り強く主体的に追究しようとしている。(主)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 予想される生徒の振り返り ・はじめは時間距離の短縮の利点だけを考えていたけれど、九州地方(大分県)の観光客の増加や産業の発展にもつながることがわかった。 ・もし福岡県にものや人が集中した場合、大分県がどのようなようになるのかが気になった。環境への影響ももう少し知りたい。対策があった上での実現が必要だと思う。 ・新幹線の開通が工業に与える影響がわからなかったのもう少し調べてみたい。また、費用を地方債で払うとあったが、人口が減少する中で可能なのか疑問が残った。 ・長野県など他県の新幹線開通の例を知ることができたが、他の例も調べてみたい。実際に大人がどのように考えているのか知りたい。 </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ワークシート</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; font-size: small;">プレゼンテーション資料</div>			